

区分・種別	県指定有形文化財		
名 称	おおがたきだい 大型器台／土壇原北遺跡出土 1 箇		
所 在 地	西予市宇和町（愛媛県歴史文化博物館）		
所 有 者	愛媛県	管 理 団 体	
指定年月日	平成29年3月28日		
解 説	大型器台は、西部瀬戸内の弥生時代後期から終末期において、在来の器台形土器の胴部を大きく伸長させ、口縁部や裾部を拡大・装飾して、儀礼用具へと変化を遂げた土器である。 土壇原北遺跡（松山市上野町）で出土した器台は、エンタシス様の胴部に12条の平行沈線文と円孔を7段施す。外反気味に大きく開いた口縁部の端部は上下に拡張され、端面を半截竹管による3条の列点文と棒状浮文で飾る。寸法は、器高74.5cm・口径48.4cmを測る。本例は、弥生時代後期後葉に盛行した大型器台の典型のひとつである。		

